

## 銀座街づくり会議

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目6-1 銀座三和ビル3F

PHONE: 03-3567-1535 ● FAX: 03-3563-0236 ● <http://www.ginza-machidukuri.jp>● このNEWS LETTERは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています ●  
● 本誌の内容を、許可なく無断で複写・複製および転用・転載することを禁じます ●

5月24日、2009年度銀座街づくり会議活動報告会を開催しました。この1年の報告に加え、2006年11月の設立以来、300件以上の申請案件を受け付けている銀座デザイン協議会の報告「銀座デザイン

レビュー」を行いました。当日は銀座街づくり会議アドバイザーの小林博人先生（慶應義塾大学准教授）、蓑原敬先生（都市プランナー）がお話をくださいました。その内容は以下のとおりです。

「銀座街づくり会議」：報告会



## 銀座デザインレビュー Vol.1



## デザインレビュー

デザイン協議制度は中央区市街地開発指導要綱によって定められ、中央区との法的手続きの事前に、事業者が計画のデザイン等について地元と話し合うことを義務づけた制度です。銀座1～8丁目全域の「敷地面積100㎡以上の新築建物及び申請が必要な工作物」が対象ですが、実際には100㎡以下の建物や申請の必要のない工作物、仮囲いやリニューアル工事などもいらしており、設立以来今年4月までに313件を受け付けました。

協議の実例としては、三越、歌舞伎座、6丁目開発、東急不動産（東芝ビル）等の大規模開発があります。新築建物のファサードについては、新しい素材の検討、インパクトの強いデザインの模型の検証等の協議を重ねています。またファサードの色やデザインの、周囲との調和について議論されてきました。また用途としてカラオケや競輪場外車券場、納骨堂などについて、エリアや通りにふさわしいものかどうか議論され、事業者に要望書を出した例があります。

広告デザインもさまざまな課題が出てきています。例えば大きすぎるロゴマークや原色を多用した色づかい、性的表現の見せ方、全国どこでも同じ広告（銀座ならではのものにしてほしい）、周辺工作物とのバランスの悪いものなどです。また最近LEDを駆使した光や映像、匂いのような新しい広告媒体も登場してきています。

## 事業者へのアンケート

東京工業大学中井研究室が、2008年末までに申請のあった事業者に対して実施したアンケート調査によると、事業者の多くは「銀座らしさ」を大切と考え、「銀座らしさ」を考慮して計画しています。銀座デザイン協議会からの要望にはほとんどの事業者が答えており、理由は「要望に取り入れるべき点があった」「地域コミュニティに認めてもらう」「よりよい環境作りは大切」な

どでした。さらに銀座デザイン協議会の取り組みは「銀座らしさを保つため」「地元と話し合う場として」大切だと答えています。自由意見には、「方向性を明確にしてほしい」「ネガティブチェックよりも、完成したデザインの評価をすべき」「規制で良い街並みはできない」といった貴重な意見がありました。

## 銀座デザイン協議会の役割と今後の課題

銀座デザイン協議会は、全銀座会事務局が事業者と顔を合わせることでできる良い機会ともなっています。その際、町会や通り会への入会や街の活動への参加のお願い、工事説明・近隣説明の徹底のお願い、建物完成後のビル管理についての注意などもしています。

今後の課題は、各エリアや通りごとの特徴を明らかにし「うちの通りはこのような通りにしたい」というヴィジョンをはっきりさせ、判断の方向性を明確にすることです。また、匂いや光など新しい広告媒体、内容について基本的な考え方を議論していくことも必要です。

また協議案件が増えている中で、事業者が計画を進めやすいよう迅速な対応が求められていますが、事務局や担当メンバーの体制、組織を持続的に支える原資の問題は大きな課題です。

デザイン協議は銀座のみなさんの総意と理解の上でなされなくてはなりません。そのためにも銀座デザイン協議会にどのような案件が来てどのような課題があるのか知っていただき、情報を共有して頂くことが大事です。

会場からは、「住民のことも考えたまちづくりを」というご指摘がありました。「住む」ことは街にとって欠かせない大切な要素です。銀座街づくり会議では、全銀座会・町会・通り会を通して、住民の方も含めた銀座の皆様様に情報をお知らせしています。まずは町会活動・街の活動に積極的に参加していただき懇親を深める中で、思いと情報を共有していきたいと思ひます。